

試験方法

(落下試験)

次の図に示すように、防護棚（朝顔）を試験用の足場（ジグ）に取り付け、2種類の落下体を円筒チップを下方にした状態で自由落下させる。

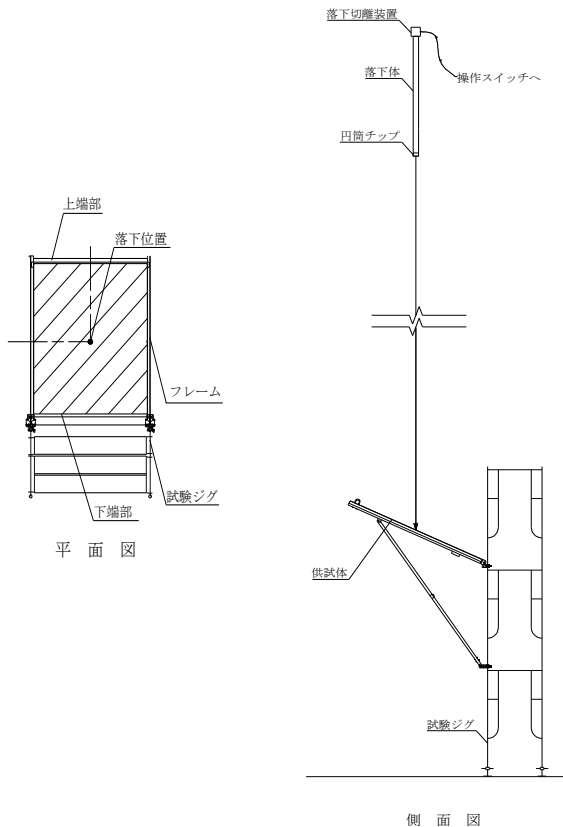
落下点はフレーム又は補強材で区切られた最大面積部分の中心とする。

「落下体及び落下高さ」

①外径 48.6 mmの鋼管に円筒チップを取り付けたもので、質量 7.7kg とし防護棚面レベルから上方 6.3mの高さとする。

②外径 34.0 mmの鋼管に鋼板チップを取り付けたもので、質量 6.4kg とし防護棚面レベルから上方 6.3mの高さとする。

試験方法（例図）



実大試験の実施回数と試験結果の評価方法

(1) 試験回数

試験はそれぞれ3回実施する。

(2) 評価方法

落下体が防護棚を貫通しないことを確認（評価）する。なお、落下体が防護棚に衝突した後、防護棚外側に落下する等の結果については判定（評価）の対象としない。